

現場の知識とデータを活かす データサイエンティストの育成

～社会実装力育成のチャレンジ～

社会情報科学部 準備室

ささしまむねひこ
○准教授 笹嶋宗彦

キーワード

データサイエンティスト育成, 現場, データ分析, 社会実装力, 情報科学, 社会科学

研究概要

近年, 様々な分野でデータの分析と活用の重要性が認識されている. 高度なデータの利活用が出来るデータサイエンティストは, (1)高度なデータ分析力(技術力), (2)データの社会背景を正しく把握する力(ビジネス力), (3)分析結果を実社会に活用する力(社会実装力)の3つの力を備えなければならない. これらのうち, 最も重要であるが継続的な教育が難しい社会実装力の育成を目指して, その教育方法の研究と準備を行っている. 具体的には, 図に示すような企業と学部との協力関係を試験的に構築し, 企業と大学の双方にメリットのある連携によって, 継続的な人材育成を実現する仕組みを, 主に実現性の面から検討している.

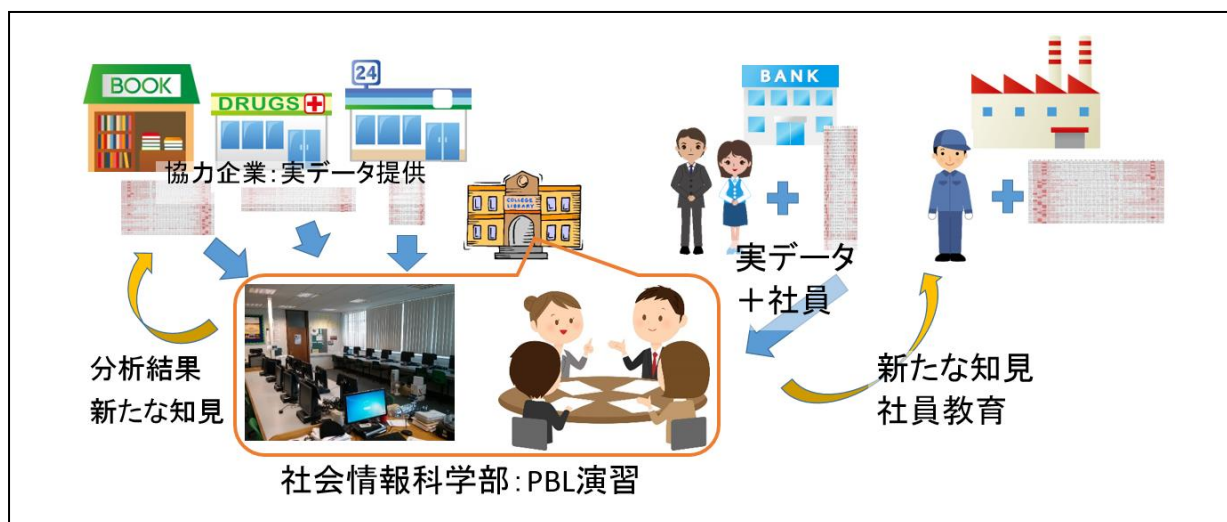


図: さまざまな企業との連携によって実現するPBL(Problem Based Learning)演習

アピール ポイント

本学は, 企業や自治体から継続的な協力を得られる環境にあるため, 長期間にわたってデータサイエンティスト育成が可能である. 神戸商科キャンパス前身の神戸商科大学の時代から長年に渡って輩出された卒業生が, 県内外の企業の要職に就いており, データ提供や人材派遣において, 準備段階の現在でも既に非常に協力的な対応を頂いている. 実際のデータを利用する教育には, 大変な手間がかかるため, 個々人の教員の頑張りでは継続的な演習は不可能である. 例えば, データを安全に取り扱うためには, データ提供元の企業などとの協力関係の構築と維持, 匿名化などのデータ加工作業や, 安全に保管するためのサーバ等設備の管理, 情報倫理教育など, 様々な課題を解決しなければならない. これらを学部としてバックアップすることで, 教員が学生教育に集中できるようになり, 長期のデータサイエンティスト育成が実現できる. 既に複数の企業および自治体から, データ提供や人材派遣の内諾を頂いている. この環境を活かして, 近い将来には, データサイエンティスト育成の方法論を教科書化して, 他大学や企業等に展開する. 長期的には, 本学部を国際的なデータや人材の一大交流拠点とすることを目指す.